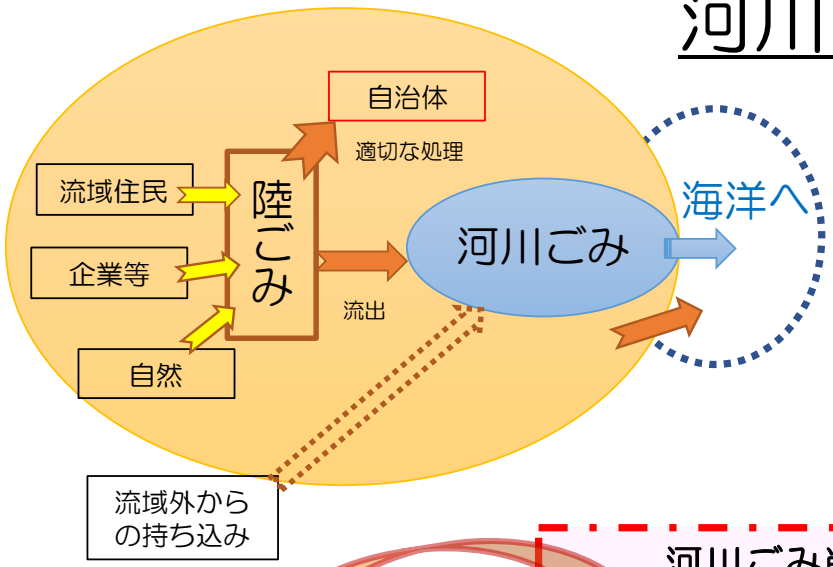
河川ごみ対策の動きと
情報提供のお願いについて

平成31年度河川ごみ対策検討業務
河川財団・日水コンJV

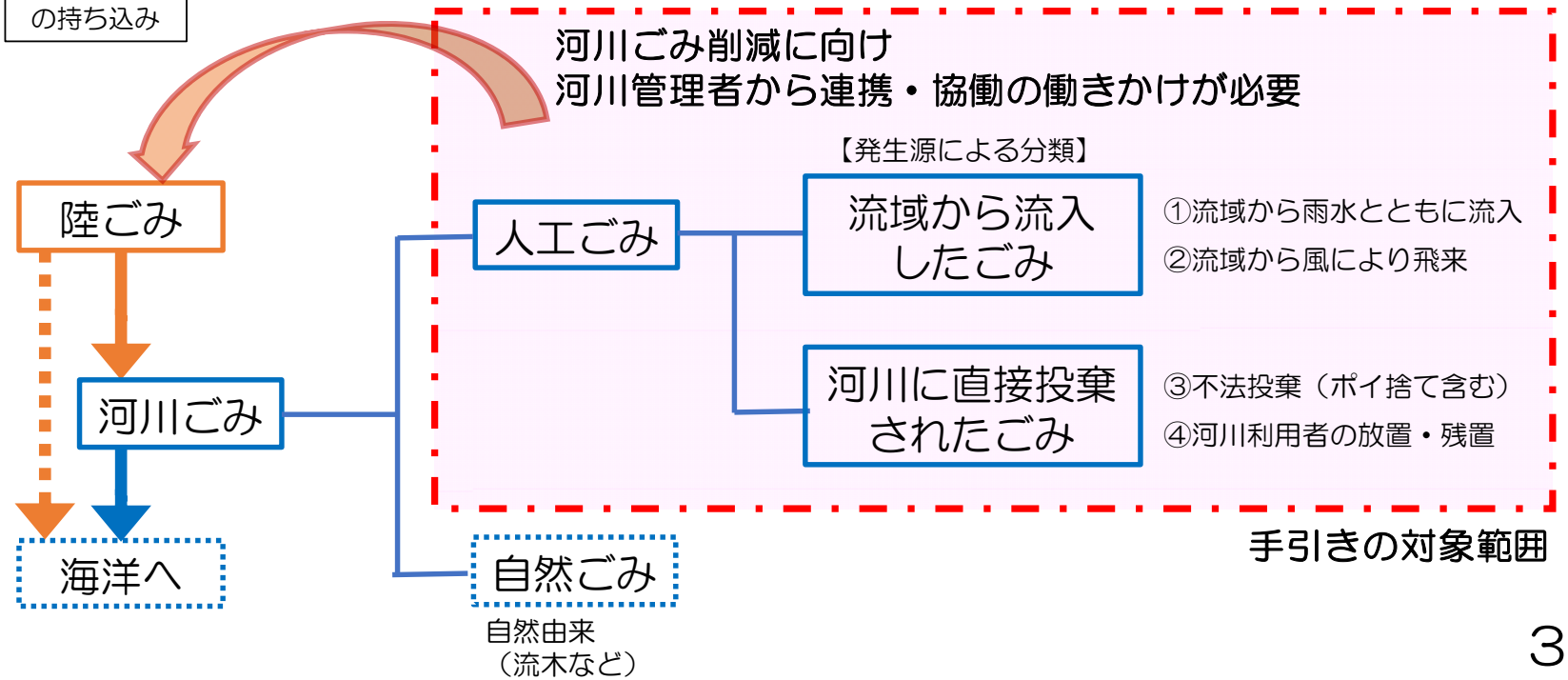
1.河川ごみ対策の動き

- 「河川ごみ」は、河川の自然環境に影響を与えるだけでなく、河川管理施設の維持・保全にも大きな影響を与えるため、河川管理者（国・県など）としては「河川ごみ」への対応が重要課題のひとつとなっています。
- 最近の報道でよく見られるように、マイクロプラスチックに代表される「海洋ごみ」が地球規模の環境問題となっています。
- これら河川ごみや海洋ごみの原因は、その多くが流域で発生した「陸ごみ」です。陸ごみを削減するためには、河川管理者による対応だけでは限界があります。このことから、流域の様々な関係者（県・市町村・住民・企業等）との連携が重要となります。
- このため、国土交通省では、河川管理者として実施可能な方策（様々な関係者との連携を含む）をまとめた「河川ごみ対策の手引き(仮称)」の策定に向けた検討をしています。

河川ごみとは？



【河川ごみの発生要因】
①流域から雨水とともに流入
②流域から風により飛来
③不法投棄（ポイ捨て含む）
④河川利用者の放置・残置



2.矢作川における情報提供のお願い

(1)モデル流域の選定

- 「河川ごみ対策の手引き(仮称)」を作成するために、河川ごみの状況・団体の活動状況等を参考に、モデル流域として矢作川を選定しました。
- 矢作川では、以下の2項目について調査を行う予定です。

◆矢作川（連携が進んでいる河川）

①矢作川流域圏懇談会という連携組織づくりに至った経緯を調べて、手引きに反映する

②全国であまり例のない「散乱ごみマップ」の作成を試行し、手順や課題をまとめ、手引きに反映する　←本日の話題

※粗大ごみと散乱ごみ
・粗大ごみ：不法投棄された家電製品など
・散乱ごみ：流域から洪水や風により運ばれてきた生活ごみ・ペットボトル等、河川利用者が放置・残置したバーベキューごみなど
　→「粗大ごみマップ」は多いが、「散乱ごみマップ」は少ない。

(2)今回お願いしたいこと

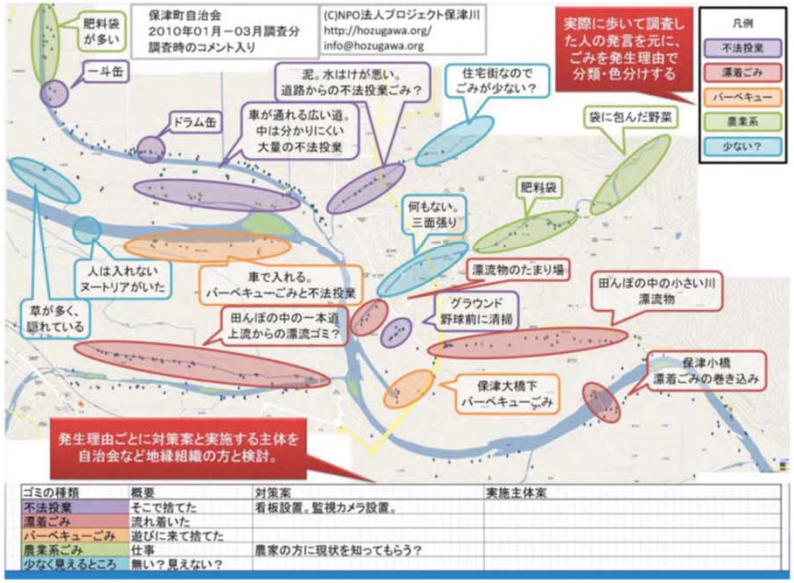
- 「矢作川水系（支川を含む）で、散乱ごみが多いと感じる場所・区間」に関する情報提供をお願いします。
  - ✓ 河川の流れ特性などにより、洪水後に散乱ごみがたまりやすい場所
  - ✓ 公園、駐車場、道路・橋との位置関係により、散乱ごみが投棄されやすい場所　など

情報をどのように使う？

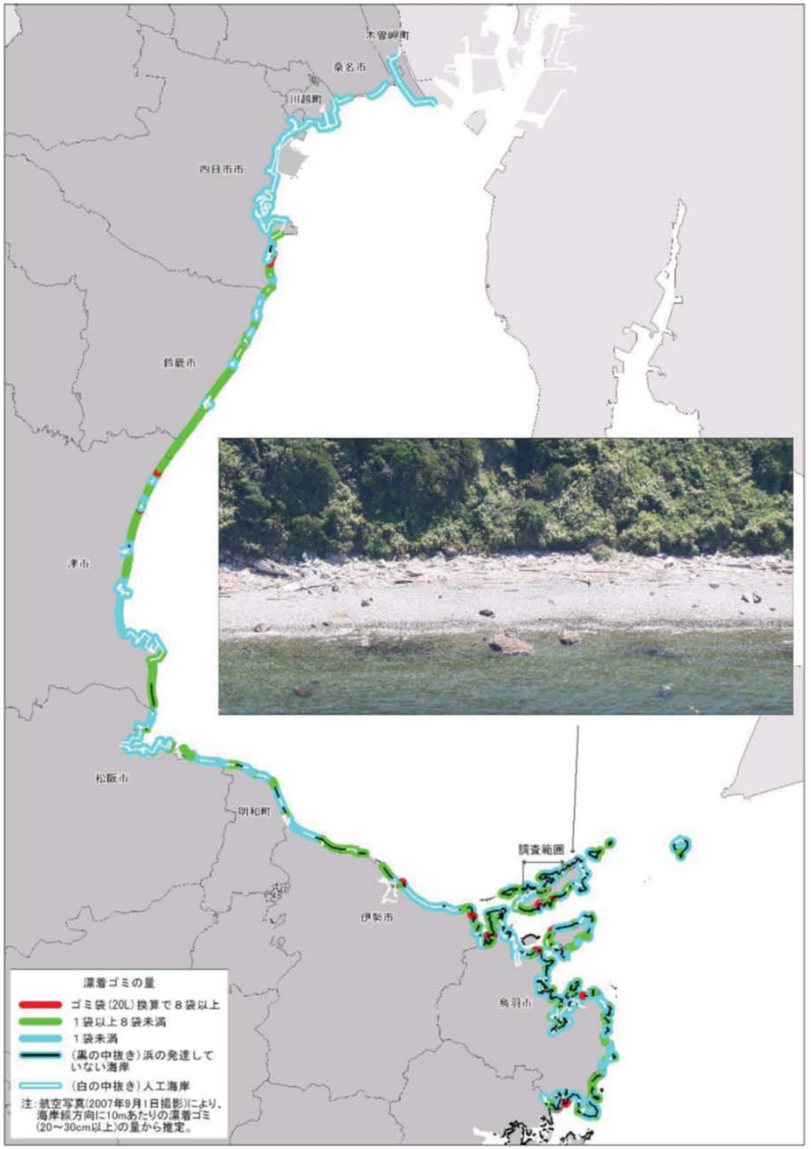
- 散乱ごみが多いと思われる区間で、散乱ごみ調査（今回はJVでドローン等による調査を予定）を行い、散乱ごみマップを試作します。
- 散乱ごみマップ作成に際しての課題等をまとめ、手引きに反映します。
- 今後、散乱ごみマップが普及すれば、マップを参考に散乱ごみが多い場所を重点的に清掃するなど、河川ごみ一斉調査等がよりいっそう効果的になることが期待されます。

散乱ごみマップの事例

例１　最上川散乱ごみマップ
（ＮＰＯ法人パートナーシップオフィス、鶴岡工業高等専門学校）



例2　保津川散乱ごみマップ
（NPO法人プロジェクト保津川）



例3　三重県海岸散乱ごみマップ
（環境省）